

山田第五小学校に係る学校規模適正化説明会 議事概要
(山五小学校の児童の保護者)

- 1 日 時 令和5年9月16日(土) 午後1時30分～4時5分
- 2 会 場 山田第五小学校 多目的室
- 3 参加者 山田第五小学校の児童生徒の保護者 33名
学校教育部 山下部長
教育未来創生室 薬師川室長、木村参事、土井主幹、向垣内主幹指導主事、
渡辺主査、金谷係員
放課後子ども育成室 堀室長、中村参事
- 4 内 容 山田第五小学校に係る学校規模適正化について
- 5 質疑応答

保 護 者：すいません。この案件はもう確実に決定しているのか、決定していないのかということ自体がちょっとよく分かっていなくて、最終年内には条例改正で決定しますっていう形であるならば、まだ疑問に思っていることだったりとか、不安に思っていることを改善していただいた形で決定することになるのかなと思うので、来年になることも考えられてはいるのか、今年の年内で決められるのかを、ちょっと延びるのか、延びさせられないのかっていうのを今知りたいなと思います。

教育委員会：ご質問ありがとうございます。最終決定かどうかということですが、現時点では最終決定ではございません。先ほど説明がありましたように条例改正が伴いますので、条例改正案を市議会に提案して、市議会によって可決された場合が最終決定となります。改善の余地があるのかというご質問ですが、我々皆様からご心配事や、こうした方が良いというようなご意見いただきましたら、そこは真摯に検討させていただきたいと思っております。現時点ではそういった大きな変更はございませんので、我々の考えているスケジュールとしては先程申し上げました通り年度内で現時点では考えております。

保 護 者：ご説明ありがとうございます。説明を聞いた中で統合するという前提で話が、この案件があがったというふうに受けとめました。その中でデメリットに関して余りにも検討が薄いという印象を受けました。まとまってはいるんですけども、特に心理面です。私自身が子供の時に転校が多かったもので、学校が変わるということに関しては非常にストレスがかかることだと思っています。学校単位で変わるということで私は個人で動いたのでちょっと状況は違

うんですが、そこに対するケアや検討が薄いというふうに受けとめました。期間も1年ですし、子供たちは山五に、今私3年生の保護者なんですけれども、今の1クラスで最後まで行くんだという気持ちで入学してきています。その気持ちを裏切るといのは非常に子供にとって辛いというか、思ってたことが違うっていうのは非常にストレスになると思っています。そこら辺はもっと検討していただく必要があると思っています。なので、時期が早いと思います。計画の面なんですけども、吹田市のホームページでこの件に関する情報を見ました。2029年ですかね、少子化になるということで検討をしてるんですけども、引っ越すのが2026年ということでこれもすごい急いでるなという印象を受けました。数を合わせたいっていうところは教育委員会の思いなんでしょうけども、そこが非常にそれありきで進んで、非常になんか生徒・児童のことが全然考えられてない、保護者も家が遠くなるというところ。山三が減る、南山田も減る、イコール山中も減るっていうところで、その先っていうところは全然見えてない上で、この山五を山三に統合する話が進んでいると思っています。非常に何かやっつけ仕事のような印象を受けてます。元々うち山田市場なんですけれども、山田市場って元々南山田の校区だったはずなんですけどもそこが統合されてる。その内容、その背景とか理由とかが全然この資料とかには説明がない。なので、そういうところが全然考慮されてない。そういう経緯、その時のメリット・デメリット。そういうところが検討に入っていないと思っています。そういう点からいくと先程、全国的に子供が減っている、大阪府が減っているっていう情報あったんですけど、吹田市は人口増加してるはずなんですよね。なのでその情報が出ていない。何かその情報なんでないんだというふうに思いました。というところで意見としまして、もっとデメリットの辺を、特に心理面のケアというところはもっと検討していただきたい。少子化とかその先々、もっと先のことを見据えると、簡単に山五を山三に入れることが果たしてふさわしいのか、この先10年とか見た上でふさわしいのかということに関しては非常に疑問が残ります。というのが私の意見で、もっと検討していただきたいんですけどもそういうことは可能でしょうか。

教育委員会：ご質問ありがとうございます。確かにおっしゃるように今回の学校規模適正化については統合という手法により、学校を移っていただくことについて、子供たちのケアは大切と思っております。そこに関しましては我々、教員の人事異動等でも配慮させていただいて、なるべくご心配を解消できるようにしたいと思っておりますが、今回の適正化、統合することによって教育委員会としてはかなりメリットがあると思っております。現時点では6年間ずっとクラス替えがでず、人間関係が固定化してしまうというのは本当に教育環境としてど

うなのかというところは真剣に考えさせていただきました。今後これが少しでも改善すればいいですけども、先ほどおっしゃったように吹田市の人口は、局所的に伸びているところがありますが、それは例えば公営住宅とかの大規模な建て替えによって局所的に人口が増えているという状況で、全体としてはやはり減少傾向になるという状況でございます。山五小学校につきましては、ずっと6学級が続きますが、中身を見ますともう児童数はどんどん減少していきます。今後は、100人を切るような推計でございます。そうなってききましたら、1学年が10数人で、男女が数人と数人みたいな形になってしまいます。これが本当にいいのかどうかということを本質的な部分で我々考えさせていただきます。実際にこういう小規模の学校はどうかと思われて、引っ越しされたという実績もあると聞いております。そうなった場合に、1クラスで男の子が1人だけとか、女の子が1人だけとか、そのようなことになる可能性もあると思っています。本当にそれが子供たちの教育環境としていいのか。我々としては早急に手をつけないといけない、改善すべきであると考えています。昨年からはすべて単学級になっているということを考えると、少しでも早く子供たちのために何とかしないといけないと思いで、今回提案をさせていただいております。確かに子供のケアは大切だと私も思います。そこは、きちんと現場の先生とともにバックアップをさせていただきたいと考えておりますので、数合わせで急いで教育委員会が何かやっているということだけは絶対はないということはお伝えしたいと思います。過去、山田市場が山五小に校区が変わったという経過は確かにございます。南山田小学校が当時大変多くて、そういった中である企業が撤退し、大きなマンションができるために、過大規模校の対策として山田市場の一部を山五小に移させていただきました。当時の判断としてはそれがベストであると考えた結果であると我々は思っております。

保 護 者：ありがとうございます。デメリットのところで学級の固定化っていうところだけしか聞こえてこないんですね。そのデメリットを考えていただいているというのは非常にいいことだとは思いますが、それ以外の点がなんかあまりにないがしろにされているという印象がありますので、そこら辺はもっと広く考えていただきたいと思います。

教育委員会：貴重なご意見ありがとうございます。

保 護 者：すいません。今お聞きした市場のところが元々南山田だったと私は知らなくて、それは何年前に山五になったんでしょうか。

教育委員会：平成 15 年 4 月に山田市場の 9 番から 11 番、こちらが山田第五小学校に移っておるという経過でございます。

保 護 者：休日のところ説明会をしていただきありがとうございます。去年からいろいろ案を出していただいていた、A・B・C 案とあって去年の内容からしたら山田市場と長野西のところを山五の方に持ってきてやるっていう案が、一番メリット・デメリットを考えた上でいいんじゃないかっていう形で説明されてたと思うんですね。私もそれで来るのかなと思ってたら、山三と統合という形で発表されてちょっと驚きはあったんです。確かにうちの子供がこのクラス替えを経験してメンバー固定されずにできるっていうのはいいことだと思うんですけども。やっぱりそちらの案の方でやったら中学も西山田と山田に別れるようなこともなく、同じ校区で変更せずにいけるのかなと思うんですけども、それが覆されたというか。その A 案をあえて押しのけてこの今回の案になったっていうところの理由がちょっと私にはまだ。いろいろ南山田と検討したところのデメリットをご説明されてたと思うんですけども、私はちょっとまだ納得はいけてないかなというところがありますので、もうちょっとその辺の詳しい説明っていうのをしていただきたいというのが 1 点と、あともう 1 点なんですけども、将来もし西山田と山田でうちの子供が選択しないといけないっていうのは今後当分の間ということで、ちょっと具体的な数字とか期間を示すことができないとはおっしゃったんですけども、我々保護者としてはそこ非常に重要なところで、ある程度意見が来て最終判断をするってことで今ご説明されたんですけども、大体の最終判断というのはどのぐらいの時期にされるのかっていうところをちょっと教えていただきたいなと思います。

教育委員会：ご質問ありがとうございます。昨年確かに A 案、B 案、C 案という形でアンケートをとらせていただきました。その時に山五だけでなくって、他の小学校の適正化も同時にアンケートをとらせていただきました。距離であったり中学校区の変更とかっていった、表面的な分析をお示しした上で、アンケートをとらせていただいたという状況です。別に A 案の南山田から校区変更するという案を我々が推していたわけではなく、あくまで 3 案、他の学校の時もそうですけれども公平な形でご提示させていただきました。それぞれの案に対して、皆様のご意見をお伺いしたいという趣旨で実施をさせていただきました。南山田との通学区域の見直しに関してどういった議論があったのかというところでございますが、先ほど申し上げた通り今回山三から分離して山五ができました。二つの小さい校区の小学校、山三、山五ができました。それぞ

れの過小規模校化がどんどん進んで、まず山五が過小規模校になって、山三小もどんどん過小規模化に向かっている。この分裂した二つをくっつけたら、同時に 1 度に二つの課題が解決できるというところをご説明しました。それが南山田との通学区域の見直しでしたら、中途半端な形で山三だけ残ってしまう。山三をどうするのかというような問題が残ってしまいます。そういった中途半端な解決方法をとるために、南山田小学校の児童を友達と別れるような形で転校して山五に来てもらうとなると、南山田小学校の保護者の方はおそらく反対されるだろうと思っております。南山田小学校が大きな学校規模の課題があったり、今回これをするによって全員ハッピーに問題解決できるというようなことであれば、南山田小学校の児童や保護者もしょうがないよねと言うかもしれませんが、課題が残ります。南山田がどんどん児童数減少していった適正化をしないといけないという状況でもない。隣の小学校になぜ移らないといけないの、友達と別れて。というような心理的な問題が起こるのと思っております。また、もし実施したとして、山五小学校が中長期的に適正化が保たれる規模にする場合には、南山田小学校のかなりのエリアを山五小学校にしないといけない。昨年示したのが山田市場の残りと言野西、を変更した場合だったんですけども、令和 3 年度の推計で、令和 5 年度の推計で再度見ましたが、それだけのエリアでは足りないという状況です。そうなった場合に、二、三百人の児童を山五小学校に転校していただくことになり、今教室が 6 教室ぐらいしか余裕が山五小学校にはございません。昔と違って通常学級以外に支援学級や学童、通級学級も必要になっている学校も出てきている中で、それだけの児童を受け入れるだけのキャパが残念ながら山五小学校には現在ないです。8 教室以上教室が足りないというような試算をしております。そうなければかなり大規模な増築工事をしないといけないというような状況でもございます。こういった課題がたくさんある中で、山三・山五を統合するという、根本原因の解決できる案と課題がたくさんある南山田との通学区域の見直しとどちらがベストかを議論した結果、山三との統合がベストであると結論づけました。あと、中学校の経過措置の部分ですが、これもご説明しましたが、我々の想定では、例えば 5 年くらいで区切ってしまうのは逆に無責任であると考え、きちんと実績を確認させていただいて、その実績の中身も学校現場の先生のお声も聞いたりして、きちんと判断できたらと考えております。ただおっしゃるように、何年になるのかわからなかったら弟妹どうなるの。バラバラになる可能性もあるのというご不安があるということは未就学児や、先週の説明会でもお声をいただきました。今日も午前中に未就学児の保護者さんにそのお話はさせていただきましたが、これはあくまで私担当の意見では、大体今後 5 年ぐらいは過渡期なので山田中学校を選択される子

もいれば、西山田の選択という結果もあると思います。その5年を大体過ぎたあたりから、一年生からずっと山三小学校に通う子供ばかりになる。そこから、プラス5年の実績を見て、計10年ぐらいの実績を見て、やっと冷静な判断、公平な判断ができるのではないかと担当としては思っておりますので、大体目途として10年ぐらいで、まず第1回目の検討に入れば、皆さんご納得いただけるのではないかと現時点では思っております。ただこれ組織としてまだ決定したわけではございませんので、その点については議論の末、皆様に正式にお話できればと思っております。

保 護 者：説明ありがとうございました。お話を聞いてる中で人口の減少と過小規模ってところで、統廃合の流れとしてはもうこれ自体は仕方がないのかなと考えるんですけども、やはり私も先程もご意見出ましたが、ちょっと結論が短絡的なんじゃないかなっていうところに疑問を持っております、例えばですね、山三小学校と山五小学校の統合というところの結論を出しておられますけれども、こちらなんか中長期的な観点でおっしゃってますけれどもその過小規模同士の学校が統合したところで、5年先、10年先に、今度は山三・山五を統合したその小学校が過小規模になる可能性っていうのはゼロでは決していないと思います。そういった意味では山三・山五の統合で一択だけではなくて、やはりちょっともう少し長期的な観点から、学区自体を、お隣の学区だけとかそういう狭い範囲で見たら、課題が中途半端に残っておっしゃってますけれども、吹田市の中にある山五小学校の学区自体を、それぞれ適切かどうかっていったところで見直すとか、なんかちょっとそういった検討をされてないような気も、資料からは読み取れないんですけども。それで山三・山五統合が最善ですっておっしゃってるところにすごく説得力が欠けるかなというところでもうちょっとその範囲を広げるとか中長期的な観点で複数案出した上で、山三・山五が最善という説明の仕方をしていただけたらありがたいなと思います。そういった意味ではですね、先程中学校の選択とかは実績とかを見ながら10年ぐらい様子を見ながらとおっしゃってましたけども、中学校の選択はそんなに時間をかけてしっかり向き合うとおっしゃっているのに、ここ2年でこの急ぐ理由っていうのがますますよくわからないなと思ってまして、この2年という時間軸は何でどこからはじき出してこの時間軸で統合を進めないといけないのか。急ぐ理由、時間をかけられない理由っていうのを聞きしたいというのが二つ目です。ちょっとお話を聞いて一番納得していないんですけど、山三・山五の統合が最善っておっしゃっているところにすごく引っかかってまして、それは誰にとって最善なんだろうかっていうところにご回答いただきたいと思います。

教育委員会：まずは、その他の地域を再編するというご質問と思います。元々、市内全体の校区の再編をしてはどうかというところから、実はこの話がスタートしました。課題を抽出して、五つの学校がまずは候補として挙がり、その中に山五も含まれているのですが、市内の複数の地域、学校の方々、保護者の方とお話をさせていただきました。やはり校区を見直すことにしましては、かなり皆さん敏感に反応されてかなり厳しいご意見を多数いただきました。大炎上するぐらいのご意見をたくさんいただきまして、市内の校区の再編というのは、そんなに簡単にはいかないと。やはり市内 36 校小学校ありますけれども、それを一つの議論でまとめることは実感としてはほぼ不可能であると。36 校の議論をするのであれば、36 の校区の保護者と同時に話をしていけないといけないというところで難しいと。1 校 1 校、議論をしていこうというところでまずは昨年藤白台小学校の検討をさせていただいて、そこが一定落ち着いたので山五小学校というところになりました。今回お示しはしていないですが、いろいろなシミュレーションをしております。山五・山三だけを分析して、南山田との通学区域の見直しだけを分析して、それで結論に至ったというわけではなくて様々な議論した上での結論であって、これが我々としては一番良いという思いでお話させていただいたところでございます。なぜ急ぐのか、中学校は余裕がある期間を取るのに急いで小学校を取り組まなくてもいいのではないですかというご意見もあれば、早く取り組んで欲しいといったような保護者さんからのご意見も昨年多数伺っておりますし、我々としてはこの課題というのは早急に解決すべき課題であると思っていますのでこのようなスケジュールで進めさせていただいているというような状況でございます。

保 護 者：説明会ありがとうございます。先程、南山田の学区変更になるとみんながハッピーになるという話があったと思うんですけど、中学校を山三に行っただとして選択制になると思います。その時に山五から山三に行った人たちもそこで選択しなければいけなくなると思うんですね。中学校に上がる時、小学校 6 年生の思春期も入ってきて、多感な時期だと思います。親は近い方がいいと思っても、子供はそうじゃないとなった時に、家庭内でも余計な争いが起こるんじゃないかな。今のままだとそのような心配もなく普通に中学校行けるけど、そこで選ばなければいけなくて結構大変だと思います。でも、何か選択制にしたからいいでしょっていうふうにも聞こえてしまうので、その辺がすごい雑だと感じています。

教育委員会：基本的には山三小学校に統合して、山三小学校は西山田中学校区なので西山田

中学校区になります。統合前も山田南につきましては、西山田中学校区だったので、元の形に戻るということをベースに我々制度設計をさせていただいております。ただ、どうしてもすぐ隣に山田中学校があるので、ここに関しては一定配慮をさせていただいた方がいいという思いです。強引に元々西山田だったんだから西山田に行ってください、山田中学校はもう行けませんというような判断もあったのかもしれないですけども、そこは一定の配慮をさせていただいたという議論の経過ではあるんですけども、それが余計子供たちにとって選択権を与えることによって良くないよと、マイナスが大きいよということでしたら、その経過措置というのはなくすというのは全然可能ではあります。

保 護 者：そこを望んでるのではないんですけど。友達関係が固定化するっておっしゃってましたけど、今だと山中に山五と南山田が入るので、そこでまた新しい友達関係ができると思うんですけど、今度南山田から山中、一小一中になると、今度南山田の子たちも友達関係が固定化するっていうことが起こるんじゃないかなとも思います。なので、今山五と山三の問題だけですがよく見られてる気がするんですけど、中学校もそうやって問題になってくると思いますし、昔は確かにこの辺から西山田中学まで行ってたかもしれませんが、今これだけ暑い日が続いてしかも子供たちすごい荷物で帰ってくるんですね、中学生。特に部活で次の日試合だったらもう自分のかばんに大きい水筒にボールも担いで帰ってくるみたいな状態で、30分この暑い中歩いて帰ってくる、また大雨もすごい降るっていう中で、それは子供たちのことを考えてくださってるのかなっていうのは少し疑問に思います。先程も我々としては最善だと思いたってという答えが返ってくるんですけど、それは教育委員会側の視点だと思います。でも子供たちはどう思っているのかっていう子供たちの気持ちっていうのは聞いてくださってるのかなとか、聞こうという気持ちを持ってらっしゃるのかなっていうのが少し疑問に思います。やはり実際に変わるのは、大人じゃなくて子供たちなので、しかもこれを2年で進めるっていうのは、子供たちも今すごい心理的にしんどい思いをしています。移る前の今からすごく気にしてるんですね、子供たち。その辺も考えていただきたいと思います。

教育委員会：ご質問ありがとうございます。まず南山田と山田中学校のお話をいただきましたありがとうございます。吹田市内には他にも一小一中のところがございまして、今回南山田と山田中学校につきまして複数クラスあるということで、一定人間関係の固定化というのは防げると考えております。あと、子供の気持ちということで今おっしゃっており、まさにその通りであると感じております。

我々としてはやはり教育環境を守っていくというところがございまして、それは今の子供たちもそうですし、今から小学校にどんどん入っていく子供達もそうだと考えております。あわせて、どうしても今この小学校のお子さんが山三に行くということは、先程もご意見ありましたが、心理的な負担が大きいということもありますので、そのあたりは可能な限りそういった負担を軽減できるような取り組みを考えていきたいと思っております。先ほど少しお示しをさせていただいて、ちょっと薄いのではないかというご意見もいただいておりますので、またアイディアなどもいただければ、そのあたりのことを真摯に検討させていただきたいと思っておりますのでよろしくお願いします。

保 護 者：3年前までPTAをしていて、昨年吹田市PTA協議会の本部役員もしていたので、この学校規模の適正化でいろんなことを考えてくださってるっていうのはすごいよくわかるんですけど、ちょっと私の方も聞いてると今令和5年からちょうど令和17年のところ推移しているグラフが出ていますけど、このところと言うと昭和52年のところからの学生数の推移のところだけを見て、統計の分析をされているにも関わらず今このタイミングですぐに決めてしまうというのは、少し急ぎ過ぎなのかなというところが一つ。ただ、この学校の規模で人が少なくなるというのは、もちろんそのデメリットもあるんですけど、果たしてその山五小に通っていただいている保護者の方、学生達、子供達は、デメリットをどこまで感じているのか。逆にメリットがどこにあるのかを、その両方から考えた上で学校教育っていうのはしっかり考えていただくことがすごい大事なかなと思います。二つ目に私自身住んでるところが先程から話題に出てる山田市場9番のところなんですけど、子供が西山田中学校に行くって考えた時に家のところから山田中学校に行った時に70メートル、西山田中学校まで行ったらどれぐらいかかるかわかりますか。

教育委員会：大体ではあるんですけども、1.7とか1.8とかそれぐらい。

保 護 者：1.8ですね、往復でいうと3.6キロ。先程もおっしゃられてた、そのどんどん暑くなってる中それだけの距離3.6キロ歩くと結構大変やと思うんですけど、私の家からでも3.6キロでまだまだ遠い方もおられると思います。中学校に行った時に選択制にして子供の配慮を考えていただいているかと思うんですけど、山三に統合されて山三で仲良くなった方達が居てる中で子供たちがどう考えるって考えたら、山三の子達みんな西山田に行くけど私は山中に行くっていう子も中にはいるかもしれないけど、西山田中学校を選択するっていうところは子供たちの中では多いのかなと思います。それっていうのは、選択

の自由になるかっていうとまたちょっと違うところになってくるのかなというふうに考えますので、その子供の教育っていうところを考えていくっていうのであれば、その人の環境で子供たちがうまく心理的な環境、あとは地域の人達が山五小がなくなったらどうなっていくのかっていうところ、いろんなところの思いを含めた上で、学校規模というところを考えていただけるといいのかなと思います。そこはもうしっかり熟慮していただいた上で慎重に丁寧にやっていただいて、どんどんどんどん人が少なくなっていってっていうのはすごいわかるところではあるので、そのところも含めた上でまたご提示いただけますと幸いかなと思います。

教育委員会：貴重なご意見ありがとうございます。

保 護 者：ありがとうございます。ちょっとおっしゃってたんですけど、中学校の空気の問題だとか、あと2年しかない。中学校の選択制は10年。でも一番大きな問題の統合が2年というところちょっと疑問しかないんですけども、その選択をもしするってなった時に、本来は自分が行きたい区域以外の中学校に行く時って書類を出したりだとか申請っていうものがあると思うんですけどそういうのは簡易にできたりとか、子供たちの書類だとかいちいちそういうのがどうなっていくのか。あと小学校自体なくなってしまった後の山五はどうなるかっていうのも結構ちょっと気にしていまして、ちょっと潰すっていうお話も聞いたりして、2年前に改修工事したばかりなんですけれども、それをどうやって生かしていくのかとか、多分その教育面でもそうですけど地域のものであると思うんですね、避難場所であったりだとか。そういうものを含めて、本当に2年ではないといけないのか。時間をかけないといけないものが違うのではないかなと思うんですけど、もうちょっと10年、選択制みたいな10年来のことではいけないのか、2年っていうことではいけないのか。その2年を絶対なのかっていう小学校の行く末とか、後にどう使われてるっていうのをちょっとお聞きしたいんですけども。すいません。

教育委員会：我々この議論に至る前に、外部委員で構成する審議会に答申をさせていただきました。その外部委員というのが大学の教授が2名、小・中校長先生が1名ずつの2名、PTAからの代表が市Pから2名出していただいて計6名で、どうあるべきか、吹田の教育の規模、環境というのはどうあるべきかというところをご議論いただきまして、31学級以上の過大規模校、そして6学級以下の過小規模校、この二つについては速やかに課題解消を図るというようなお答えをいただいて、それをベースに教育委員会として議論した結果、基本方針

という形でその考え方を我々としても持たせていただいているという状況でございます。そういった中で、我々過小規模校の課題様々ある中で、それを速やかに解消すべきという立場で、今そのスケジュールで進めさせていただいております。2年と経過措置の10年とすごく違うんじゃないですかというお話もあろうかとは思いますが、経過措置はあくまで配慮でございますので、今回の過大規模校・過小規模校の課題解決のスピードと同じように比較するのは違うと私個人は感じております。山五小学校を今後どうするのかということにつきましては、結論から言いますと未定ではございますが、すぐさま校舎を取り壊すことは全く考えておりません。教育委員会としては、教育委員会が持っている課題の解決の場に活用できないかということを考えてはいるんですけれども、ここに関しては市長部局との検討というところも合わせた上で、今後決定していこうと思っております。噂ですぐに壊すみたいなお話があるというふうに先程おっしゃってましたけれども、すぐに壊すということは全く考えていないとお伝えしたいと思います。

保 護 者：すいません。昨年引っ越してきた者がちょっと紛れてるんですけど、地図を見ていて、ごめんなさい簡単な疑問なんですけど、山三小学校の地区の子も山中近いと思うんですけど、山三小学校、山五小学校が一緒になって、また遠い西山田中学校になるのは何でなんでしょうか。

教育委員会：山五が西山田中学校になるのは何故かということでしょうか。

保 護 者：いや、山三小学校の地区も西山田中学校は遠いような気がしまして。一緒になるなら山中でいいんじゃないのかって、去年引っ越してきた者からしたら。もう本当に暑いし行き帰りの危険がちょっと親としては心配かなと。

教育委員会：山三小学校については、元々歴史的な経過からも西山田中学校でございますので、その枠組みは今回も山三小学校は変えないと。従来通りの枠組みの中で進めるということでございます。

保 護 者：それは検討されてですか。

教育委員会：これまでの枠組みは変えないという結論に教育委員会として至っているという状況でございます。

保 護 者：ご説明いただきありがとうございます。過小規模校はあんまり良くないみたいなこと言われてますけど、コロナ禍の時でも教室でうけられてみんなが登

校できたし、運動会も従前の通り 1 年生から 6 年生みんなで実施できたし、6 年生から 1 年生までの上下関係の交流もすごくあるし、私的にはすごくうちの子は兄弟がいなかったのも、すごくありがたかったなっていうプラスの面もすごくあると思うんです。確かに、クラス替えがないことは子供たちの中であるかもしれないんですけど、その分深く人と関わりを持てるんじゃないかなって思ってるんですけど、今回の合併の説明が子供たち経由で来たので、すごく不安な気持ちを今与えています。この合併が、質問 2 つあって、中学校選べるって聞いたんですけど、いきなり 2 年ちょっと 1 年ちょっとの交流もどれぐらいあるかもわからない中で、いきなり合併になって 6 年生は小学校最後の修学旅行や、ずっと頑張ってきた大切な行事もある中で、いきなりその新メンバーで気まずくはないのか。子供たちはいきなりその合併もまだ決まってるのに、9 月で説明されて余計困るんじゃないかなって思うんですけど、もう 9 月にはもう子供たちに説明はしてしまうんでしょうか。あと中学校も選べるって聞いたんですけど、中学校はクラス替えとかで何月までに意見を出さなきゃいけないっていうのはあると思うんです。それをいきなり大好きな小学校がなくなって、何とか気持ちを立て直して頑張ろうと思っている中で、考えてくださってるのはすごくありがたいんですけど、なんかいきなりそこで中学校どっち行くみたいな質問を子供にするのはちょっとどうなんだろうっていうのもあるし、1 年間しか交流の機会ってないのかなっていうのも親としてはちょっと不安です。やっぱりいきなり小学校なくなるよ、じゃあ来年でちょっと触れ合って皆で仲良くなって、再来年じゃあまたいつてらっしゃいっていうのもやっぱり子供達の立場としてすごく不安なんじゃないかなって思うのが思っています。なのでちょっと子供たちの声をもうちょっと聞いて欲しいなっていうのと、いきなりその説明会を封筒にも何もない状態でびらっと渡されて、ちょっと子供たちもみんなすごく不安がっているんで、それをもし今後そういう合併するっていう小学校があるとしたら、そういうことはやめたいなと思って思います。何かまとまってないんですけど、以上です。すいません。

教育委員会：ご質問ありがとうございます。今のご質問をお聞きしてお子様はおそらく 4 年生いらっしゃるのかなとか思いながらお聞きしてたんですけども、確かに 6 年生で山三に行って、そこから次の年は中学校を選ぶというのはお子さんにはかなりご負担がかかると考えております。その辺のお気持ちは我々も理解をさせていただいております。そういった中で今回苦渋の決断の中、我々も課題解消を進めさせていただこうとしているところでございます。先程も申し上げたところなんですけれども、そういったお子様の心理的なご負担を少しでも

も軽減させていただけるような取り組みっていうのを考えさせていただきたいと思っています。今回の資料でお示しできてない部分もあろうかと思ひますし、今後ご意見いただきながらどういった取り組みをすれば、お子さんの負担、気持ちの負担を少しでも減るのかというところは考えさせていただきたいと考えております。よろしくお願いします。

保 護 者：ご説明ありがとうございました。まさにその4年生の子供を持っている者なんですけれども、4年生の子供の親です。私元々転勤でここにきました。吹田ってとってもいい町だと思ってます。実際、お姉ちゃんも上が中学校、山中へ行ってます。こういう話になっている中で、今たくさんのお父さんお母さんがお話されたので大体同じ内容なんで重複するところもある。大して正直返答になってないものもいっぱいあるんですけども、一通りそれがその質問に対するQ&Aになっているのかなっていうところで、ちょっと重複するところがあるかもしれないんですけども。まず、吹田市役所のデータで、山五も山三も人数があんまりそこまで大きい変化がないっていうデータもあったんですけども、先程おっしゃってたように今までのデータでこう減っていく中で、なぜこのタイミングで急ぐのかなと。やっぱりもう少しこの時間をもてば、納得しない人もいるかもしれないですけども、まだこんなバチバチすることもないのかなっていう感じを受けてます。やっぱり当然お家を買われてる方もいたり、その距離の問題だったりとか、そういうのもあると思います。自分の引っ越してくる時に、家を選ぶ時に距離、安全性ちゃんと調べて部屋借りました。通学路が安全かどうか、車が飛ばしてないかどうか。夜はどうだ、朝はどうだとか、ちゃんと調べた上で今住んでいます。それがやっぱり変わるんですよ。距離も変わるし、どうですか今皆さん逆に質問したいんですけども、山五の正門から山三に行った時、1度でも歩かれていますか。全員歩いてますかね今ここにいらっしゃる方。歩きましたか本当に。何がありますか右手側に。何がありましたか。

教育委員会：竹藪です。

保 護 者：そうですね。誰の持ち物ですか。

教育委員会：所有権までは確認できてないです。

保 護 者：そういうのもひっくるめてリサーチもしてない中であそこを通すのかとか、安全のどうするのかとかって今進路を変えとかいろいろありましたけれども、

まずそういうのも見えない。カメラ付ける、グリーンライン引くとか、解決するわけじゃないじゃないですか。朝 8 時にそこ通りましたか、小 1 時間でも立って見てましたか。夜 17 時ぐらいにちょっと暗くなりかかっている時に、立ってその状況見てますか。

教育委員会：危険な箇所だというのは認識してるので、山五内に通路を別に作って、安全確保をしたいというふうに考えております。

保 護 者：そこなんですけど、その山五を抜けた子が違う学校に行かなきゃいけない。つまりこの山五に通いたいと思った子が、通えなくなった子達、そこを通ることをどう思っているかとか、そういったの考えたことがありますか。

教育委員会：おっしゃるご意見実は先週も出ておりまして。そこに関してはおっしゃる通り、自分たちの思い入れのある学校を横目に通学される児童に関しましては、精神的な影響というところもあるのかなというふうには、ご意見をいただいて我々も認識をしておるところでございまして、例えば違う通路のご提案とかがあれば、そこは真摯に検討させていただこうかなとは思っております。

保 護 者：その選択肢もやっぱり出さないと。それは今からかもしれないですけども、全然そういったのが足りない。配慮も足りない。さっきいろんなお母さん方が言ってましたけども、教育委員会って誰のためにあるんですかね。これ根本的なことだと思うんですよ。親のためではないです。子供のためですよ。その子供たちの気持ちを汲み取っているようには見えないんですよ、はっきり言って。聞いてもいないし、噂だけ回って混乱して、心配になって。とてもじゃないけど理解ができない。やっтерことは統計論だったり全体的なことをやってる、確かにそうだと思います。人数が少ないことによって、教育のさっきご説明ありましたが、そういうのはわかります。当然わかります。ただ、小学校入る時からこうなるってのを理解した上で今言ってるんですよ。少なくなるなって、1 クラスになるなというのでやって選んでる人達もいるはずですよ、多分おそらく。やっぱ嫌だけど引越しもできないとかいろんな家庭の事情でいろんなのでできない人もいるかもしれないけども、それをあえてやってる人達がいるんですよ。それは親のエゴかもしれないですけども選択してるんですよ。今通ってるんですよ。もう一つ言います。さっきおっしゃってました転校のイメージになるんですよ。1 年間だけ山三に行くんですよ。微妙な空気、あっちの方が数多いですから。おそらく力の論理でいけば、向こうの方が強いと思います。当然よそ者が来た形になりますから。普通人間ってそうです

よね。距離空きますよね。最初からウェルカムで仲良くなれるかっていったら微妙だと思うんですよ。そうなるかもしれない、ただそれは確実です。誰もわからない。それをやった上でですよ、1年間やっただけで、はいどっちか行ってください。多分山中行くとしますよ、お姉ちゃん山中行ってるから。本当にそれでいいのかな。この話を聞いた時思ったのが、この微妙な何年か行ってる子たちは犠牲の世代だと思います。言葉悪いかもしれませんが、それぐらいのそれをやってるっていうことを、ちょっとそういう意味もひっくるめても。かと言って2、3年延ばせという意味ではないですよ。それが自分の子供だけよければっていう意味ではない。もうちょっとやり方とか、もうちょっとみんなと話し合う時間とか、そういったのがあってしかるべきなんじゃないか。今日来て説明会を受けて、決まっていますっていう路線でいかれる。当然、議員通すかどうかとかあるかもしれませんが議会を通そう。じゃあまだ決定ではありませんよっていうのは、建前上はそうですよ。だって決めるのは議員だもん。もっと言ったら議員を選んだのは我々です、多分おそらく。そういう論理でいったら通るんでしょ。ただ、あまりにも雑。あまりにも配慮が足りない。もうちょっと言葉だけじゃなくてね、配慮します、検討します、これが最善ですとか、そういう言葉だけじゃなくて。もうちょっと入り込んで、もうちょっとしっかりこっちのメンバー、もっと親とかと話し合う時間を持って本当にこの2年というのが正しいのか。2年ですよ。それをちょっと考えて欲しいなと思います。だから今、基本的に自分が聞きたかったことのQ&Aも皆さんが言ってるその通りなので、それをいちいち答える必要はないですけど、意見は言わないと。やっぱりそれは親として言う責任があると思ってます。若干感情的になってるところ少し自分でもわかってますけども。みんなすごい紳士的、すごい優しい人達だと思う。怒号が飛んでもしょうがない、怒号が飛んでふざけんと言われてもしょうがない内容やとそれぐらいの感覚で聞いてます。自分の子供たちが本当にそうだった時にどうするの。もし自分の子供が本当にその立場にいるんだったら、こんな感じにならないと思う。さっきの答え言いましょうか。朝8時ぐらいあそこ車通らない道なんですけどあの通学路、バイクがガンガン通りますよ。はい、轢かれました。どうします。責任取るのかって話になる。グリーンライン引くだけで本当に車が、自転車、オートバイが避けると思いますか。世の中いっぱい事故ってるじゃないですか。子供のところに突っ込んだりとか。そういうのを考えて家を選んで人間もいるんですよ。もっと本気だったら、リサーチ全部、みんなが納得する数字、回答、意見、出してきて。納得させないと。議論になってない。説明になってないと思います。

教育委員会：リサーチ、ちゃんと通学時間にスタッフがそこに張り付いて、どういう状況か
っているのを把握した上で、新通学路というところの設定を考えております
ので、その辺もご理解いただければと思います。
お時間来てますけどまだ延ばしても大丈夫ですかね。ご都合の方大丈夫です
か。ちょっともう少しばらく延長させていただきます。

保 護 者：すいません。覚えていただいていますでしょうか。先週も説明会に参りました。
2年生と5年生に子供がおります。1週間前に同じ説明をお伺いいたしました。全く納得もできず、
その場におられた保護者さんが説明されたことに対して、それこそ何回か単語に出ていますけど、
真摯にお答えいただいたというような実感があまりありませんでした。家に帰って何が起きてる
んだろう。あの説明会は何だったんだろうと思うような1週間でした。今日来るかどうか
も本当は悩んだんですけども、子供がどうしても自分の気持ちを伝えて欲しいと言ったので、
本当はもう聞くのもしんどいくらいだったんですけども、ちょっと出て参りました。私は山三
には行かないと。中学校選択させてもらえる、意味がわからん。3年間仲良く暮らしたお友
達の3分の2は、西山田に行くことが確定していて残りの3分の1が山中と西山田に別れる。
そしたら自分は西山田に行きたいと泣いていました。親の私は山中に行かせたい。なぜか
という小学校は近い、中学校はさらに近いという理由で私は家を買いました。その理由で
家を選んだんです。そういう家なんです。子育てにおいて何を大事にするか。各ご家庭ある
と思います。我が家に関しては学校が近いということを理由に家を買いました。通学路、規
模、全てわかっています。規模が小さいこと、学区が狭いこと、全てわかっています。私
は選びました。そこにメリットを感じてここにいます。あなたたちが感じているメリット・
デメリット、私が感じているメリット・デメリットは違います。そこのすり合わせも丁寧
になされないままに議案書の提出はやめていただきたい。前回の説明会でこれはどうや
ったら止められるのかと聞かれた保護者さんがおられました。反対意見の内容によるとお
答えをされています。どのような内容だったらこの統合は止まるのでしょうか。2回説
明をお受けしましたが、全く子供のこともその子供を日々育てている私たちのことも考
えていただけるようには感じられないんですよ。すごく今まで大事にしてたものを壊さ
れた気分です。どれぐらい私たちの気持ちって吹田市教育委員会に伝わっているんでし
ょうか。皆様のお答えもたまたま主語が「私は」だったり、「私の個人の意見としては」だ
ったり、吹田市としては、吹田市教育委員会としてはコロコロ変わりますよね。もっ
と時間をかけて私たちと話をし、本当に子供たちのことを思ってくださいませんか。
もっと時間をかけて私たちと一緒に考えてもらえ

ませんか。私達結構真剣に子育てしてるんです、ここで。こんなに簡単に、たかが2年、2年後にはあっち。中学は選べるよ。不安しかないです。他の学校の友達にこの話をしました。実は山五の少なさをメリットに感じて引っ越しをする予定の友達がありました。慌てて止めました。家を買ってこっちに引っ越してくる予定のお友達を必死で止めました。賃貸に住んで一軒家を買おうとしてる人ちょっと躊躇してます。2年後にはだって違う学校に行くかもしれないんですよね、吹田市内に住んでる限り。もうそろそろこのペースやめませんか。一番の影響受けるのが子供なんです。私たちは子供が大事なんです。あなたたちも吹田市内に住んでる子供のことを大事に思ってくださいるんだったら、もうちょっと真剣に考えてもらえませんか。言いことは山程あるんですけど以上です。

教育委員会：ご意見ありがとうございます。お気持ちの方受けとめさせていただきました。

ちょっとなかなか我々の方もお示しをさせていただきましたように過小規模校というところの課題というのはやはり大きなところというふうに思っています。これを進めていくに当たりましては、課題とか心理的な負担もあらうと思いますので、引き続きご意見はお受けしながら課題解消に努めていきたいなと思います。

保 護 者：ご説明ありがとうございます。先週も来たんですけども、最善とすごく言い切られていて、先程西山田に山三の方がみんな行かれてるのも、山田にしたらいんじゃないかって聞かれた際もそれはもうずっとそうなんで、山三は西山田でそのまま行きますって言い切られたんですけど、それやったら山五も山五のままで山田中学に行く。このままだとそんなにいけないことなんでしょうか。今人数は少ないですけども、やっぱり学年を超えて仲良くしてますし、先生も手厚いですし、私個人としてはかもしれないんですけども楽しくというか子供たちはみんな満足して通ってるんじゃないかなと思ってます。それを山三に変わったことによってもうすでにでき上がったところに入れられて、仲良くなれたと思ったら同じ中学に行くのか、違う中学校に行くのか、自分で選ばないといけない。親としてはもちろん山田中学校に行って欲しいんですけど友達基準で選ぶと思います、子供に選ばせたら。そうなるとうちの事情にはなるんですけども、西山田やったら歩いて30分ぐらい。もっとかかります。それってもう安全面でももちろん心配ですし、防犯とかっていうことなんですけども。夏も熱中症だったりとか、今でもすごい荷物で帰ってくるんです。距離的にはやっぱり自転車通学とかできる距離でもないと思うんですけども、それでも本来心配するところじゃない心配は増えるわけなんです。山五のま

まで行くことがそんなに駄目なのか、どう駄目なのかをちょっと知りたいってのと、その選択させるのって酷すぎないかなってというのが第1です。やっぱり最善って言い切られてるのも誰にとって最善なんやろうってというのが疑問です。山五の人たちがみんな最善って思ってるのかも疑問です。ちょっと2年っていうのも短いっていうのももちろん私としても納得です、もう一方的にほぼ99.9%ぐらい決まった状態で言われても、誰1人納得しないんじゃないかなって思います。以上です。

教育委員会：最善という言葉のところが皆さん使っておられるのかなあと、先程から何度もご質問、ご意見をお受けさせていただいております。絶対的最善というところと相対的最善というところがあって、絶対的な最善というふうに受けとめられたのかなと。我々としてはこのまま過小規模校のままで残す。で、他のいろいろな手法がある。そういった選択肢の中で、相対的に統合というところが最善であろうというふうな結論に至っておるというところで、おっしゃるように様々な課題であるとか、そういったのがあるというのは重々承知しております。先程もおっしゃってたような、通学路の問題であったり、子供の心のケアの問題であったりというところは、我々きちんと対応していかないといけないという思いもございます。あと、我々も万能ではございませんので、地域に実際にお住まいの保護者の方々からよりこうした方がいいよというようなアドバイスがいただけて、それで我々もその視点を加味した上でよりよいものにしたいなというふうに思っておりますので、ご意見、メール等で今回の説明会の案内を送らせていただいた通知文にメールを載せてますので、そのメールでもお叱りでも結構です、アドバイスでもご助言いただけましたら我々としてはありがたいなと考えております。

保護者：小学校2年生の保護者です。現状、支援学級に在籍しておりまして、学童でも配慮を使わせてもらってます。児童が転校することによる心理的影響に対する心配というところで、全員同じ学校に通うことができますとだけ書いてあるところにすごく引っ掛かっていて。もうちょっと具体的に、次また説明会何度かあるとは思いますが、もうちょっと具体的なところを出して欲しいなと思います。先程先生の人事異動とかも考えてますってということだったんですけど、保育園から小学生に上がる時も、保育園時代からもう小学校に下見に来て、授業を見てもらって、子供に。先生にも子供を見てもらって、学童の先生にも保育園に来てもらってっていうふうに、しっかり見てもらってからの入学でやっと2年生になったとこなんです。支援学級に在籍してるかしてないかに限らず、小学生ってすごく繊細だと思うので、この一文でまとめら

れるとやっぱり違和感をすごく感じるなっていうところがあるので、もうちょっと具体的にどんなことをしますっていうところ挙げてもらいたいなと思っています。以上です。

教育委員会：すいません。今おっしゃってた一文っていうのはどこに記載の一文でしょうか。

保 護 者：29 ページです。保護者の主な心配事への対応のところですかね。

教育委員会：おっしゃっていただけてる通りで、仮に例えば山五の子供たちが二つに別れて、どこが行ってしまうよりも、全員で移るということをお示しただけであります。実際にそうであったとしても、相当の心理的な負担をお持ちに、与えてしまうということをこちらも認識をしているところです。ご意見ありがとうございます。

保 護 者：すいません。今一番下の子が1年生で、上の子中1で、その上にまたさらに高2の子がいます。全員山五小で、山田中学校に行きました、2人は。一番最初に申し上げたいのは「僕の個人的な意見なのですが」っておっしゃったあれは言うてはいけないと思います。個人的な意見ではなく言われたことは全て市の意見だとこちらは捉えます。なのでやめていただきたいです。5年、10年っていうのは多分市としてはやらないと思います、私は。で、5年前に学童が崩壊いたしました。その時も、うちの真ん中の中1の子が在籍しておりまして、安心して預けられなかったのも、夏休みが終わった時点でもう学童を辞めさせた経緯があります。当時の吹田市の職員、もうその関係者は入れ替わっていて誰1人としておりません。そう聞いております。なので、この5年後、10年後とおっしゃっても多分、いらっしゃらないのかなと私は思ってしまうんです。申し訳ありません。それからですね、校長先生から小学校1年生の子供に学校が変わるかもしれないというお話があったと息子から聞きまして、大変びっくりしました。そんな話私は聞いてませんでした。なのに何で校長先生はそんなことおっしゃったのか。校長先生学童が荒れた時に、何回も見に来てくださった方なんです。子供のことを誰よりも考えてくださる方が、そんなことを子供にまず言いますか。私は教育委員会から何かあったのかなとしか思えません。子供に説明する前にまず保護者に説明会とかがあって、徹底してから言うべきじゃないんですか。子供はもう不安になってます。新しい学校は絶対行かないって言ってます。こういうことはやめていただきたい。順序が全然違うんじゃないですか。不安にならないようにっていろいろおっしゃってますけどまず不安にもうさせてます。他のお子さんも一緒です。なぜ与えなく

ていい不安をあえて与える必要がどこにあるんですか。手順間違え過ぎです。資料も薄っぺらいです。小学校のことしか考えてない。中学校のことの資料全然ないです。なぜなら、西山田小学校のことが何も書かれていない。中学校が一緒になるのに。何クラスあるのかもわからない。何人いるのかもわからない。中学校何クラスあるのか。何もここにはあんまり書かれてないですよ。学童もそうです。新しい学童になる。そっちの資料はどこにあるんですか。口頭で言われただけです。2年後に変わるんだったらその資料いるんじゃないんですか。

教育委員会：すいません。山三の学童のことなんですけれども、山三のことは人数についてはすいません、お示しできていなかったんですけれども、どちらかというと委託になることであったり、どこが運営してるとかいう状況という山三にどういうふうに移るか、山三に移るというところを中心に説明をさせていただいたと思っております。もう一つ、山五過去に委託がうまくいかなかった、職員戻ってしまったっていうのは我々も重たいことだと思っておりますので、そこも確かにおっしゃられたように、当時の職員っていうのがおりませんので、私も直接には関わっておりませんけれども、当然組織として委託の取り組みをするというかなり大きな出来事だというふうに認識しておりますので、こういった説明会の中でも資料の一部としてしっかり落とし込んで、皆さんにこちらから説明させてもらってると思っておりますので、今おっしゃられたことには我々も真摯に向き合って説明させていただいているということだけご理解いただきたいと思います。

保 護 者：すいません。理解できません。薄っぺらいです。そろばんがあります。それは全員参加なんですか。費用がかかるんですか。そういうところからも保護者は不安が募ります。細かい資料をもっと欲しいです。

教育委員会：その辺りはすいません、個別に質問いただく中身かなというふうに思っておりますので、質問あればいただきたいなと思っております。すいません。

保 護 者：うちも学童行っているんですけれども、個別にというよりは全体にご説明いただいた方が育成室に通わせている保護者としては安心かなと思いますがいかがでしょうか。

教育委員会：基本的に保育料であったりその辺の費用というのは同じですっていうのがやっぱりお伝えさせていただいているので。

保 護 者：それ 1 例ですよ。その 1 例じゃなくてもっと全体の情報をまず出して欲しい。

保 護 者：というか、そもそも学童は別でちゃんと説明会を行うべきなんじゃないかなと思うので、今ここで山五小学校の話と学童の話が一緒になること自体が、ちょっと学童に通われてない方もいるので、学童の詳しい話がなかなか聞ききれないので、ちゃんと分けてやるのがやっぱり丁寧な対応なんじゃないかなっていうふうには思います。すいません横から。

保 護 者：私もそう思います。全然納得がいきません。小学校に関しても、中学校に関しても、学童に関しても、全てです。

教育委員会：現時点では確かに議論たくさんあると思いますけれども、一緒に説明をきっちりさせていただきたいというふうに思っています。

保 護 者：ちょっと地域の観点から申したいと思うんですが、下校時のパトロールっていうのを皆さん保護者の方に皆さん毎日ご協力していただいているんですけども、山五の地区の見守り隊の方にも毎朝と下校時、毎日していただいております。今度山三と統合するっていうことになりますと、地域の関係もどうなるのかなっていう不安もありまして。いつも見守り隊の方であったりとか、他の山五の地区の方達もいつも子供のこととか見てくださったりしてるので、ここで山五の地区は小さいっていうこともあってかもわかんないんですけども、やっぱり治安もいいですし安心して、安全な地域なのかなっていうのは自分も思っております。皆さん西山田の中学校に行くとなれば、距離が遠いっていうことで山田中学校は近いっていうことを皆さんおっしゃってるんですけども、やっぱりこの、この山五の地域、山中すぐ近くでするのでやっぱり地域的にも安全っていうか、治安も良いっていうところで、山中にも行かせたっていう親御さんもいるのかなって私はちょっと思っております。そういったところも今日提示していただいたデータであったりとか、人数が少なくなってきた今後子供たちの教育にも関わるということなんですけれども、そういうところも考えてこれから決めていっていただきたいと思うんですけども。そういうこういうこの場所に出て話っていうのはちゃんと聞いていただけるのかなっていうのがすごく不安に思っています。ちょっとさっき、先程の話にも出たように学童の民営化になった時に、今中学 2 年の山中に行ってる息子が言うんですけども、その子の時に民営化になりまして、やっぱ

り民営化になる前に吹田市の方とこういう話の場を何回も設けていただいたんですけれども、結局民営化ありきでこちらの保護者の意見を全然聞いてもらえなかったっていうイメージがありまして。で、結局、学童も崩壊したみたいに荒れに荒れて。結局大変だったのは子供たちとか保護者であったり、先生だったので、ここの意見というのをちゃんと聞いていただきたいなっていうのをすごく思っています。以上です。

教育委員会：ありがとうございます。本日いただきましたご意見、また、こちらの議事録も整理させていただきますので、その中でちょっと整理をさせていただきますのでどういった形で対応させていただくのかというところの形態など整理させていただきたいと思います。ありがとうございます。

保 護 者：すいません。いろんな方がお話ししてるんで重複するところありますけども、本来さっき 6 名の方が、お偉い方が教授とかいろんな方々が決めた意見が一つの意見であって、我々こういうゴールが決まった状態でこういう説明会をするんじゃないくて、教育委員会としてこういう意見が出ましてこういうふうを考えてますっていう話があって初めて我々と保護者と話をして、じゃあどうしていきましょうというのが順序だと思うんですよ。今回ってもうゴール決まって持ってきてるじゃないですか。そこがそもそもの問題。さっき言ってるのと重複してますけども。自分同じことさっきも言ってますけども。やっぱ間違ってる、このやり方が。今、我々今いろいろ意見言いました。先程、こういう意見を真摯に受けとめて考えます。考えただけでどうするのか。どう皆に返すのか。例えば紙 1 枚でやっぱり決まりましたって返すのか、メールで市役所のホームページに載せましたで終わるのか。もう 1 回こういう説明会をしてちゃんともう 1 回説明するのか。本来は 1 回目がさっき言ったように対等の意見を言い合って議論する場であって、2 回目に説明会を受けるなり何なりして決まりましたとかっていう順序が必要だと思うんですよ。今それをすっ飛ばしてます。だからもう 1 回この今出すものがもう決定してるような言い方をずっとされてますけども、これを 1 回取り下げた状態でもう 1 回話をして、やっぱりやりますやっぱやりませんとかっていうのが本来丁寧な対応です、と思ってます。そういうのをやるのかやらないのか。第 2 回目の説明会なり、そういったものをもう 1 回丁寧にやるのかどうか。どうでしょう。

教育委員会：繰り返しにはなるんですけれども、その外部委員の意見を元に教育委員会の方針を決めました。その後皆様からご意見をいただきたいということで、アンケートをとらせていただきました。紙をバーツとばら撒いたというような乱暴

なものではなくて、きちんとアンケートの趣旨を動画にして、丁寧に説明も付け加えた上でアンケートにお答えいただくと。それは小学校の保護者だけじゃなくて、未就学児の保護者であったり、地域の方であったり、誰でもアンケートにお答えできるような形で、公民館に設置をしたりして小学校の皆様には学校を通じて、全員の保護者に行き渡るようにしましたし、未就学児には郵送で全員に送らせていただきました。そこできちんといただいた意見を考慮した上で、今回ご提案といいますか、ご説明をさせていただいておりますので、別に皆様のご意見を全く聞かずに進めたということは我々ないというふうには考えております。

保 護 者：でも改めてこういう意見がいっぱい出てるわけですね。

保 護 者：その後白紙になったんじゃないんですか。

保 護 者：だからそうそう聞いているのもあるし、なんかこう言っていることがちょっと違うんじゃないかって。そうだったらこんなに意見言わないよ皆。納得して終わるはずなんだけれども、皆納得してませんよね。自分もちょっと聞いてても、ちょっと一方通行な感じで説明会してるってことイコール決まったことを説明してるみたいな言い方に聞こえるんです、自分がね。さっき言ったことは、事務的にやったことはやっているのかもしれないけれども、それが果たしてちゃんと、アンケートだって意見を聞いているだけじゃない。それを踏まえて決めたってのはわかる。そういうふうに考えた。そのやりとりが全くなさ過ぎて、だからこうなってるんですよ今、おそらく。もし賛成の方がいたら申し訳ないですけどね。いるかもしれないけれども、自分が感じてる限りでいくとおそらく反対の人が多いんじゃないかなと思うってことは成り立ってないんじゃない。

保 護 者：その点はアンケートでも山三との統合はもう絶対嫌っていう保護者の方がかなり多かったんです、答えとしてね。やっぱこの保護者からしてね。だからそれを何で持ってきたのかなって。

教育委員会：先程、白紙になったんじゃないかっていう話、確かにアンケートのやってる最中にスケジュール等の白紙というのはございました。で、一旦藤白台小学校を令和４年に取り組んで、それが終わったら山五小でいきますというご説明も説明会を開いてさせていただきました。で、役員、PTAの役員さんとかいる中で、アンケートの方をどうさせていただきましよう。どう取り扱いさせて

いただきましょうというような投げかけもさせていただきました。そうしましたら返ってきたお答えがアンケートは続けて欲しいと。なお、延長してちゃんと皆様の意見を聞いてそれを反映きちんとすべきなんやと思うというふうなお答えをいただきました。それでアンケートを延長して実施させていただいて、ここにいらっしゃる方もそうでしょうけども、ここに来ていない方、本当地域全体の方のお声を聞かせていただいて、我々判断をさせていただいたという次第です。

保 護 者：延長というかそういう時間をしっかりとるという検討はされないんですか。もうこんだけ出て。失礼な言い方すると最小限の被害で済むからという被害者だとしか思えなくて、最小限で済むからあれはちょっといいかとかそういうので捉えてどうしてもしまうんですけど。今、皆さん繰り返しになりますが、そのことでこんだけ検討するということも、時間をかけて子供たちのことも時間をかけてもっと交流だったりとか、決定とかではなくて、もう少し延ばすという検討はされるつもりはないですか。もう 2 年後とかじゃなくってもっとそれぞれの学校の交流だとかそれぞれを全てわかるのに、この期間では分かれるとは思わないんです、全く。それについてはもう期間をしっかりと取ってじっくり見ていくっていうその検討はされるつもりはないですか。

教育委員会：時間が短過ぎるんじゃないかというのはもう終始一貫して皆様から今日いただいたお答えなのかなあというふうには思っております。我々としては、昨年 11 月ぐらいに藤白台小学校についての実施計画という形で一定形を作らせていただいて、そこからずっと担当の方で分析であったり、シミュレーションであったり、現地で何度も足を運ばせていただいて、通学路とかも見させていただいたり。アンケートの皆様のお声もきちんと受けとめた上で組み立てて、本日も説明をさせていただいておるので、我々としてはそんなに拙速に事を進めているというような認識ではないです。

保 護 者：すいません。藤白台の知り合いがいるんですけど、選択になったというふうに聞いてるんです。青山台に行くのに藤白台の方でエリアはもうここで決まりました。そこの今通ってる方は選択で通ってくださいっていう形になっているというふうに聞いているんですけども、それだと南山田の話に戻すと、じゃあハッピーじゃないんじゃないかっていう話になりますよね、結局。南山田も多いからじゃあこっちに回してきたらどうですかっていうのが適用されて、それは皆がハッピーになれないから適用しませんよっていう話で、こちらの山五は山三に行くのが一番いい話だと思うんですけどっていうふうに伺ったと思い

ますけど、じゃあ藤白台の子は半分に割られてるのに、南山田の子は半分に割るのはかわいそうだっていう議論が通ってるっていう話になっちゃうんじゃないかなっていうのと。まあそれはどうでもいいんですけども。今さっきから話に出てて中学校の件なんですけれども、山中と西山田が選べますよっていう話で、私今4年生の子供がいるので現時点では選ばせていただけるんだなっていうふうに思うんですけども、1年山三に行かせてもらってっていう不安がものすごくあるのと、山中と西山田中学校の偏差値の違いだったりとか、それで選択肢っていうのはものすごく変わってくと思うんです。そういうところも説明のない上で選択してもらっていいですよっていうのってどうなんかなっていうのと、あとさっきも伺った、じゃあ選択肢やめましょうかみたいなのはちょっとすごく強行というか、不安を煽る発言だなっていうふうにすごく受けとめました。

教育委員会：中学校の選択制ということで、どちらの中学校行かれるかっていうのは非常にお子さんのお気持ちと、保護者の方のお気持ちと、両方あるという中で本当に難しいっていうところは我々も考えております。その中では、中学校のどちらも本当はいい中学校になっていくっていうところ、必要だとは思いますがけれども、一定の情報が出せないかとかその辺りは整理をさせていただければなというふうに考えております。

保 護 者：今高2の息子にもしかしたら一番下の子は西山田中学校に行くことになるかもしれないっていう話をした時に、第一声はやめといた方がいいでだったんですよ。一番上の子は精神的にちょっと弱い子で、山五小学校の規模が小さいので中学生になった時に大変苦勞はしたんですけども、人間関係で人が増えるので、そういう心配はあったけれども、本人なりに乗り越えて成長してその第一声。何でって聞いたら、大きな大手の塾に通ってたんですけど、クラスが4個か5個くらいある中で、上の3クラスぐらいは6割が山中生だったと。2年前の情報なんですけどね、中3の時の情報なんです。西山田の子は、下の方のクラスに割合はそんな多くはないけども何人かいたぐらいだというふうに言ってたので、なんか偏差値がまず違う。だから、もう一番下の子を可愛がってるんで、行かせない方がいいよみたいなことを言われたんです。そういう心配も私はあります。

教育委員会：偏差値の話をちょっと我々もそこまで、それをお示ししてということにはならないのかなというふうには考えております。中学校として、ホームページ等でお示しをしております実際の校風ですとか、クラスですとか、そういったもの

を見ながら、見ていただきたいなというのと、あとどんな情報が出せるのかというのは検討させていただきたいなというふうに考えております。

保 護 者：すいません。1年生と高1の子供がいます。先程から議事録にまとめて、検討、検討って何度かおっしゃいますが、その議事録は私たち保護者にも全て見せていただけるのでしょうか。今回初めて説明会に参加したんですけれども、未就園児の会も前回の会も私は参加できていませんし、あと地域の集まりでもこういう場があったと聞きましたが、その時に出た意見などを皆さんちゃんと知りたいんじゃないかなと思うんですね。それに対しての市としての意見を皆に、全員に、例えば分厚くなっても全部開示していただけるのか。それはどうでしょうか。

教育委員会：こういった皆様からのご意見、我々の回答といったところはきちんと議事録にして、未就学児の分もあわせてホームページでアップをきちんとさせていただいて。

保 護 者：ホームページではなく皆さん自分から。ホームページにアップするんだと、こちらは見せてます、見るも見ないもどうぞ。ではなく、こちらはこれだけのことをしましたという誠意として多分皆紙としていただきたいと思うんです。こっちは見せてるよって。あ、見てないの。うちは見せてるつもりだったけどね。では困ると思うんですね。

教育委員会：わかりました。そうしましたらホームページにアップをして、学校を通じてホームページにアップしたのでご覧くださいというような通知を合わせてさせていただきます。

保 護 者：それはそれでいいんですけれどもそれはいつぐらいにされますか。

教育委員会：10月上旬までにはご対応させていただきたいと思います。

保 護 者：上旬となったら10月10日までには確実にアップされるということの認識でよろしいでしょうか。

教育委員会：はい。そのような100%何があるかちょっとわからない中ではあるんですけれども、我々としては10月上旬、10日ぐらいまでにアップするのに全力を尽くします。

保 護 者：10 日にアップするということはこちらには 8 日、9 日くらいまでには遅くとも 10 日にこの議事録をアップしますというお手紙をいただけるという認識でいいでしょうか。

教育委員会：事前になるのか、大体同タイミングになるのか、そこはちょっと事務的な流れがあるので。

保 護 者：事後にはならないようにお願いしたいと思います。息子が 3 年間山中に通いまして、山中の手厚さ、トラブルをまず起こさないような対応、万が一何か起こった時にはすぐにご連絡くださる、ものすごくきめ細かな対応をしていただきまして、娘、下の子にも通わせたいと思ってるんですけども、もし彼女が西山田に行ったとして、お友達がいるから西山田中学校がいいと言う未来だったとします。その時に西山田中学校は、例えば山中のように学年別に 3 年生はこの階段しか使えない、2 年生はこの階段しか使えない、1 年生はこの廊下しか使えないもう学年別に先輩後輩によるトラブルがない、最善の努力をされていると感じるんですけども、それを市として市内全ての中学校がされている対応なのか、山中だけがされている対応なのか、などという細かいことを教えていただきたい、保護者に。山中は上の子が行っているからというお友達とか連絡とる、知る手段があります。西山田に関しては全くわかりません。あと、山中が南山田から。今の考えでいくと南山田小学校だけになるとします。東山田中学校ものすごく人が溢れています。3 小学校が一緒になりますよね。その時にまた中学校を見直すとなった時に、山五の子は今は選択制をできますが、例えば山二を山中に溢れてきて流れ込んできます。もう山五の子はもういっぱいなんで西山田だけにしてくださいという選択肢の未来になるのか、っていろいろ不安があるんですけども、その辺は中学校に関しての校区などは今は一切考えておられない状況ですか。

教育委員会：我々、毎年住民基本台帳と実際の小学校、中学校の児童生徒の在籍数というところを元に、あと住宅開発の届け出の状況なんかも加味して推計を行っております。現時点の推計を確認する中で、中学校区を変えないといけないことの課題があるという認識はございませんので、今の中でそういった検討はしておりません。

保 護 者：あと 1 点なんですけれども、西山田中学校には子供がそっちがお友達がいるからいいと言って選択した場合、1.8 キロってものすごい距離ですよ。中学校

になると皆ほとんどの子は多分塾に通って部活もしてっていうふうになる子が多いんですけれども、その場合 6 時半、山中でも 6 時半に帰ってきて 7 時に家を出なければいけない。そのまま 9 時 40 分まで塾の授業がある。でもそれは少数派ではなく、結構まあまあ人数が塾に行くので 1.8 キロというのはどこで帰ってきて、1 回帰れるか帰れないかの時間がかかると思うんですね。私の地元では自転車通学が認められていました。部活をやっている子は 1.2 キロ以上、部活をやっていない子は 1 キロ以上だと自転車通学を選べました。吹田というか大阪で中学生が自転車通学をしているのは見たことないんですけれども、それを可能にするような計画などは視野に入ってますか。

教育委員会：他市の状況も当然ながら把握させていただいて、自転車通学の必要な距離というところはまあ基準は結構バラバラではあるんですけれども、大体 2 キロを超えてるぐらいなのかなという他市状況で把握させていただいております。そういった中で、すぐさま自転車通学を認めないといけないというような状況には、このケースに関しては当てはまらないのかなという理解でおります。あとすいません。議事録の話なんですけれども、我々が実施させていただいた説明会っていうのが、未就学児の保護者さんとの小学生の保護者さんというところで、地域の方の説明会というお話もあったんですけれども、そこに関しましては我々教育委員会ではなくて市長部局の所管になりますので、そこに関してはちょっと我々の判断が及ばないところで開示して欲しいというようなご意見があった旨はきちんとお伝えさせていただきたいと思います。

教育委員会：時間も 1 時間オーバーしておりますけれども、この説明会のご案内をさせていただいた文書の中にメールアドレス等も書かせていただいておりますので、ご意見等ございましたらそちらの方でいただけましたら、またご質問でしたらご回答させていただきますし、ご意見でしたらアドバイスとして受けさせていただきます。また、パブコメの方も昨日から 10 月 17 日までやっておりますので、そちらもご活用いただけたらというふうに考えております。本日は本当にお忙しい中、貴重なお時間をとって来ていただいて、なおかつ、ちょっと時間がオーバーしてしましまして、誠に申し訳ございませんでした。本日はお忙しいところ本当にありがとうございます。